

二〇二一年度 同朋大学 1期(A方式)選抜試験 国語 問題表紙

【注意事項】

- 一、 試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないこと。
- 二、 設問 一 現代文は共通問題である。全員解答すること。
- 三、 設問 二 現代文と設問  三 古文は選択問題である。いずれか一方を選択し解答すること。
- 四、 解答は、解答用紙に記入すること。  
(設問 一・ 二 用、または、設問  一・ 三 用のいずれかを使用する。)
- 五、 「始め」の合図とともに、解答用紙の所定欄に、受験番号と氏名を記入すること。



## 〈共通問題〉

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ある個人が、自分の生命にもっとも重大な価値をおくことは合理的に思われると同時に、自己中心的な印象を与える。そればかりか、まったく他者や社会のことを考慮せずに自己利益を追求した場合には、自己中心のみならず、理性的ではない振る舞いに思われてくる。私たちはそれほど社会的な存在であり、「理性」という概念には、どこかで他者や社会の存在が前提とされている。他方、知能にはこの社会的な意味が含まれていない。

理性には「常識」に近い意味合いがある。(①)、さまざまな人のことを配慮し、社会の中でバランスの取れた考えや判断を行うことである。それは、社会の中で調和の取れた行動や判断を下す能力のことである。SF映画では「マッド・サイエンティスト」というお馴染みのキャラクターがいる。これは知的には(a)ケツシュツしながら、人類を破滅させかねない研究を行う科学者のことであるが、このタイプのキャラクターに欠落しているのは社会性であり常識である。常識は英語でコモンセンスというが、もともとはアリストテレスの「共通感覚」から来ている。人々と共通の感覚で世界を捉えていることが常識なのである。

そうになると、思考と同様に、A理性も複合的で複雑な諸能力を統合した活動と考えるなければならない。それは、個人の内部に(b)ジソクとして備わっている能力というよりも、さまざまな他者と自己との間での調整を実現する能力ということになる。

ピアジェの発達心理学によれば、子どもの発達は、一般的に、物事をひとつの側面からのみ眺めていた「中心化」の状態から、多くの側面に注意を向けて、それらの情報を全体的に統合することができるB「脱中心化」へと至る過程だとされている。

それは、現在の自分自身の観点や考えが、可能な多くの観点や考えのひとつにすぎないことを認識し、それらの多数の観点や考えを調停させ、統合的に物事を捉える態度のことである。脱中心化は、個人の内部でのさまざまな認知側面を総合する作業から、個人内部を脱して、さまざまな他者の観点を総合していく対人的・社会的な過程に至るところで達成されていく。こうして、子どもは現在の自分の視点が、多くの可能な視点のひとつにすぎないことを理解していくのである。ピアジェは、この過程を経て論理的な思考操作が可能となると言う。論理の根本には、対人関係における視点の変換が(c)携わっていたのである。知性の発達は最終的に、

( ② )、自分に妹が生まれて、親の注意が赤ん坊に注がれることで駄々をこねていた兄は、妹がまだ何もひとりではできないことや、妹にとって自分が頼れる存在であることに気づいたときに駄々をこねるのをやめる。妹の視点を取得することによって、兄は自分の置かれた位置を II できた。社会化は、自分自身の観点や(暗黙のものを含めた)信念、価値観を II する(d)ケイキである。

そうであるならば、合理性とは社会化された心性に他ならないことになる。そこで、道具的合理性の問題点を越えるべきとして提案されたのが、対話的合理性である。これは、合理性とは、社会のメンバーのあいだの対話によって獲得されていくものだという考え方である。パースやデュレイなどのプラグマティスト、ハーバーマスのような社会哲学者がそのように提案している。

価値の合理性とは、個体内であれば、個体が関心を持つさまざまな価値を調整して生命を持続させることであろう。社会における価値の合理性とは、さまざまな人々のさまざまな価値を調整して、集団において包括的な価値を見出し、いく能力である。価値が理に(e)適っているということは、さまざまな人のできるかぎりさまざまな観点からの検討を経て、やはりその価値が(f)ダトウだということである。そして、この社会的価値の合理性は、その集団の包括的な対話によって保証される。合理性とは対話において見出されるべきものである。

( ③ )、ここで言う合理性を保証する対話とは、ある主張に(g)ダクヒをつけるダイベート(討論)型、どちら

の主張が優位かを判断する法廷型の議論ではなく、集団が合意できるルールや目的を定めるコンセンサス（合意）形成型の対話でなければならぬ。では、価値についてのコンセンサスはどのように得られるのだろうか。

通常、私たちの価値観は、単純にどれが良いものでどれが悪いものであるかという個々の判断であるよりも、どの価値に優先順位をおくかという基準に (h) 則<sup>レ</sup>っている。ほとんどの人は、閑静な住環境に (i) コウテイ<sup>ク</sup>的な価値をおくが、問われているのは、その静かさと利便性、購入価格を比較してどれを一番優先させるかである。閑静で、便利で、しかも安い住宅など存在しないであろう。価値について集団で議論をするときでも同様である。

共通に関与しているテーマや対象について価値あるもののリストをそれぞれが作って持ち寄れば、その集団が価値を認めるものの包括的なリストができあがるだろう。たとえば、「ある地域の町づくりをするのに、大切にしたいもの」といった問いかけをすれば、その住民たちはそれぞれに価値を認めるものを列挙し、その多くは重複することであろう。問題は、その価値あるものについての優先順位に、参加者の合意が得られるかである。

もしX氏が、その地域の価値の優先順位として、病院づくり∨保育園の建設∨道路建設と信じており、Y氏が保育園の建設∨病院づくり∨道路建設を信じているとしよう。二人は、病院づくり、保育園の建設、道路建設のすべてが貴重なものであることを認める。そして二人は、道路建設は三つの価値の中では優先順位が一番低いことにも合意する。ポイントは病院づくりと保育園の建設の間の優先順位である。こうした場合、C 形式的には合意を見いだせる可能性がある。

たとえば、判断に条件や文脈を加えることである。Y氏は、町づくりで重視すべきは保育園を十分に建設すべきことであり、それは病院づくりよりも重要だと主張している。X氏は逆である。町に両方作れる予算があれば問題ないが、どちらか一方しか作れない。両方を兼ねた施設は二つ立てるほどに費用がかかるでしょう。その場合には、どちらの意見をとるべきかの条件を考えることになる。保育所が民営で経営でき、補助金を出せるなら、病院を優先しても構わない、という条件が考えられるかもしれない。

もう一つの方法は、判断をより抽象的なレベルに引き上げることである。ここでの抽象的とは、包括的という意味である。保育園と病院はいずれも福祉・社会保障関連の施設であるから、なによりも福祉・社会保障という、より包括的な価値を重視しようという点で、X氏とY氏は合意するだろう。もちろん、この合意だけでは、具体的な実行案はできないのであるが、少なくとも価値のすり合わせには成功したと言えるだろう。

かなり簡略であるが、これらの合意のとり方は、論理的な矛盾を解消する仕方と同じである。合意形成は、意見同士の矛盾を解消しようとすることである。意見としての矛盾とは、人間関係に置き直せば対立があるということであり、対立がそのまま深まってしまえば、(j)フンソウへと発展する。対話的合理性は、対立に問題解決をもたらそうとするものであるが、これにはD重要な特徴がある。

ひとつは、参加者に対して外から解決策が提案されるのではなく、その集団の内部から、参加者自身が自らに変化をもたらして問題解決がなされることである。対話的合理性は、第三者による調停ではない。もうひとつは、対話を通じて自分の価値が異なった仕方で見えられるようになり、価値の優先順位が別の形で定式化されることである。それは、その集団の中の人間関係のあり方が変わることであり、その集団の中での自分の位置づけも変わってくるということである。

E対話的合理性とは、対話の創造的なプロセスによって、対話の参加者の意見のあいだを矛盾のない状態にすることである。最初の意見の対立したままの状態では対立・矛盾は解消されない。政治的ダイアクトや法廷論争は、敵味方という対立の図式の中でどちらも自分たちの意見を変えずに、相手方を論破しようとする。それは対決と戦争の論理である。政治において最終的に用いられる多数決という決定方法は、結局は少数者の意見を吸い上げることに失敗し、対立図式を残し、あるいは、少数者を沈黙させ、社会を真に包括的なものにできないままになる。

対話的合理性は、対話をより深いレベル、哲学的と言ってよいレベルまで掘り下げること、議論を新しい段階へと進ませる。哲学的とは、自己反省的、自己修復的、自己変革的ということである。そうして、参加者全員のあいだ

に新しく、創造的な問題の捉え直しが生まれて、価値や目的に関しても合意が形成される可能性が開かれる。対話的合理性は、集団において包括的な価値を見出していく活動であると同時に、その集団に新しい人間関係、新しい社会構造を作り出していく過程でもある。F この二つの過程は同じものの両面にすぎないのだ。対話的合理性のモデルとは、最大限に多様な視点と意見が包括される開かれた社会のことなのである。

(河野哲也『人は語り続けるとき、考えていない』による)

問一 波線部(a)「ケツシュツ」、(b)「ジソク」、(d)「ケイキ」、(f)「ダトウ」、(g)「ダクヒ」、(i)「コウテイ」、(j)「フンソウ」を、それぞれ漢字に直せ。

問二 波線部(c)「携」、(e)「適」、(h)「則」の読みを、それぞれひらがなで答えよ。

問三 空欄( ) ① ( ) ( ) ③ ( ) にあてはまる語として適当なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、番号で答えよ(番号は重複できない)。

- 1 しかし
- 2 なぜなら
- 3 たとえば
- 4 もしも
- 5 すなわち

問四 傍線部 A 「理性も複合的で複雑な諸能力を統合した活動と考えなければならぬ」とあるが、それはなぜか。理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 理性は、人類にとって何が正しい行いであるかということ、他者や社会の振る舞いに左右されずに、自己の信念に基づいて判断できる能力であるから。
- 2 理性は、個人の内部だけで完結するものではなく、他者の存在や社会との関係の中で、それらと調和した行動や判断を行うことのできる能力であるから。
- 3 理性は、自己の利益よりも他者や社会全体の利益を常に優先し、社会的価値のために奉仕する献身的活動を行う中ではじめて獲得される能力であるから。
- 4 理性は、科学的で客観的な判断や行動の基盤となるものであり、個人が複雑化する現代社会を生き抜くためには、ぜひとも必要とされる能力であるから。
- 5 理性は、時には人類を破滅させかねないほどの大きな力を発揮するものであり、それを制御するために、多くの知識や経験が必要となる能力であるから。

問五 傍線部 B 「脱中心化」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 物事の多くの側面に注意を向けることで、自分の認識の正しさを、より絶対的なものにする。
- 2 社会的な経験を積むことにより、個人の内部で自分自身の認知側面を総合できるようになる。
- 3 自分の考えを持たず、他者の考えに自分を合わせることによって、全体的な調和を生み出す。
- 4 自分自身の観点だけでなく、ほかの多くの観点を含め、統合的に物事をとらえる状態になる。



5 物事を捉える視点は人によつて異なり、それらを統合することは論理的に不可能だと気づくこと。

問六 空欄 I にあてはまる語句として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 社会に対する批判精神
- 2 自己の観念へのこだわり
- 3 周囲の人々からの働きかけ
- 4 価値観の根本的な転換
- 5 その人の社会化の過程

問七 空欄 II にあてはまる語句として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 絶対化
- 2 相対化
- 3 合理化
- 4 差別化
- 5 一元化

問八 傍線部 C 「形式的には合意を見いだせる可能性がある」とあるが、「合意」を見いだす方法を二つ、本文中からそれぞれ二十字以内で抜き出せ。

問九 傍線部 D 「重要な特徴」にあたるものを、次の中からすべて選び、番号で答えよ。

- 1 集団の外部から変化がもたらされるのではない。
- 2 集団の中での自分の位置づけが変わってくる。
- 3 第三者の意見を取り入れることによって視野が広がる。
- 4 自分の意見を最後まで変えない参加者を排除できる。
- 5 自分の価値が異なった仕方です捉えられるようになる。

問十 傍線部 E 「対話的合理性」について、「合理性」を獲得するための「対話」の具体例として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 クラスの遠足の行き先を決めるために話し合いをしたが、「〇〇公園」と「□□科学館」とで生徒の意見が分かれてしまったため、クラス全員で投票を行ったところ、過半数の生徒が「〇〇公園」に投票したので、遠足の行き先を「〇〇公園」に決定した。
- 2 地域の取り組みとして、ゴミ処理施設の建設を推進するかしないかについての討論会を行ったところ、建設を推進する住民の主張の方が、建設を反対する住民の主張にくらべて説得力があり優勢であったため、ゴミ処理施設の建設を推進することになった。
- 3 学校でうまく行かないことがあって何も手につかず、ひとりで悩んでいたとき、塾の先生にその悩みを相談したところ、その先生に話を聞いてもらうだけで何となく気持ちが落ち着いて、それからよくよくせずついに前向きに物事に取りくめるようになった。

4 スマートフォンの書き込みをとおして連絡を取り合っていた友人と、些細なことから喧嘩になってしまったが、ある日、直接会って話をしてみたところ、書き込みからは読み取れなかった友人の気持ちを直接聞くことができ、お互いの誤解をとくことができた。

5 会社の長期目標を定めるために、各部署の代表が意見を持ち寄ったところ、会社の利益を優先する意見と従業員の安全を優先する意見とが対立したが、さらに議論し、従業員の安全を保つ工夫をしつつ会社の利益を追求するという方向で最終的に合意した。

問十一 傍線部F「この二つの過程は同じものの両面にすぎないのだ」とあるが、それはなぜか。理由として最も適切なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 集団に新しい人間関係を生み出すためには、その集団の参加者自身が、自分自身の価値観を見直す必要があるから。
- 2 対話的合理性によって、敵味方という対立の図式を解消し、多様な視点を持つ開かれた社会を実現することができるから。
- 3 集団における包括的な価値を見出す過程で、その集団の参加者自身が、自分自身の価値を捉え直すことになるから。
- 4 対話をより深い哲学的と言ってよいレベルまで掘り下げる方法としては、集団による包括的な議論が最も有効であるから。
- 5 集団において包括的な価値を見出すことができれば、それを生かして新しい社会構造を作り出すことが可能となるから。

## 〈選択問題〉

二次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

言葉の移ろいの他に、時代の (a) ヘンセン に基づく困難が生じて、ある解釈が間違っていないなくても、読み手の方がそうは取ってくれなくなる恐れがある場合があります。すぐ思い付く例が「煙草銭」です。これを『岩波国語辞典』第七版で見ますと、

(1) タバコを買う金。また、タバコ一包みを買えるくらいのわずかな金。「少しですが煙草銭の (ア) 足し にでもどうぞ」

とあります。タバコは日本はヨーロッパに比べて安いそうですが、決してそれほど安くはありません。私は十年ぐら以前に禁煙に成功しまして、タバコを買わないものですから今どのくらい高いか分かりませんが、私が吸っていた時に比べて多分倍近くになっていると思います。ちつとも安くはないんです。

日常語では使いませんが、まあ「煙草銭の足しにでも」のような言い方は、昭和前期の小説には出てきます。そうすると、(1) の程度の説明でいいんだろうか、今は高いけれど昔は安かったと書かないと、中年までの辞書利用者は (b) ナツトク しないかもしれないという (イ) 懸念 が生じます。

同じようなことは「キセル」にも言えます。もう既に喫煙用具としてのキセルを使う人はほとんどいないでしょう。キセルを使ってタバコを吸った経験のある人は、一番若くても八十歳ぐらいでしょう。すると、なぜ不正乗車をキセルと呼ぶのかも分からなくなるでしょう。もっとも、このごろの若い人は意外にのんきで、それは (c) インゴ だと思ってしまえば、それ以上どうも追求しないらしい。A そういうことを気にしない というのが、日本語が崩れていく一つの原因になるんですけれど。

キセルの語釈も、うんと思い切つて、①に不正乗車の方を書き、そこに②の喫煙具が原義であり、(雁首と吸い口があつても)真ん中が中空になつている(要するに無い)から、それに<sup>(ウ)</sup>見立てたのだと断つた上で、②で喫煙具のことを書くということを、親切ならばしなければいけないと思います。

しかし、これをする、やたらに紙の幅がいります。例として「捨て石」で検討してみましよう。『岩波国語辞典』第七版の釈義はこうです。

(2 a) ①日本式庭園で、趣を添えるため所々に置いた石。②土木工事で、水底に基礎を作り、水勢を弱めるため、水中に投げ入れた石。③囲碁で、取られる事を承知で、作戦上打つ石。④さしあたりむだのように見えるが、いつか役に立つと考えられる物事・行為。▽③の転。

これで事柄は間違いではありませんが、『岩波国語辞典』は割合に、なぜそういう意味の転換が起こるかが跡づけられるように書きます。更に、とらえ方が似ているものはなるべく合わせるという方針に立つて、字引を作っています。それで、そういう趣旨を<sup>(d)</sup>テツテイさせると、実は次の(2 b)に書くような長つたらしい表現にしなければいけない。

(2 b) ①すぐ役立つとは言えなくても先々の効果をねらつて行ふ、投資や予備的行為(に当たらせる人)。▽②(ウ)の比喩用法の固定化。同様の固定化は、程度の差があつても「いしずえ」「基礎」「人柱」などに見られる。②捨ててあるようでも役に立つ石。「東照宮の裏手の森の中で、捨て石の上に横たはりながら」(I 永井荷風「すみだ川」)▽歌舞伎舞台上の屋外に置く作り物の石にも言う。②は③の転。(ア)「日本式庭園」何げなくそこにあるか見えながら、庭の趣を増すように(通例は一つ)置く、小さくはない石。捨て岩。(イ)「土木」水底に基礎を設けるとか水勢を弱めるとか崖<sup>(がけ)</sup>の強度を補うとかの目的で投げ入れる石。(ウ)「囲碁」相手が取ればかえつて自分に有利だとたくらみ、そう仕向けて、置く石。「碁で言へば、まあ捨て石だ。俺<sup>おれ</sup>が身内を助けるのは、捨て石を打つてるんだ」(II 島崎藤村「家」)③(特に鉱山や炭坑で)無用物として捨てる石。▽鉱石を採る時に出るのを「ずり」、(北九州の)炭坑でのを「ぼた」とも言う。

「捨て石」はもちろん、簡単に言えば捨てるまたは捨てた石のことです。捨てるんですから、用済みになつていることが前提です。しかし、この意味では現在ほとんど使いません。したがって先の引用(2 a)の中には、本当に用済みになつて役に立たないものとして捨てた石が(e)カツアイしてあります。ところがこの用法が鉱山では、まだ生きています。ポタ山のポタ、あれは北九州の方言だそうです。ああいうものは捨て石と言えらるわけです。それから、純度の低い鉱石も捨て石。面白いことに、捨てたも同然という意味で使うようになります。Bこの場合には有用であつて無用とは言えない。その典型的なものが、日本庭園における捨て石です。その捨て石がないと、庭の締まりが悪くなります。おそらく日本庭園の捨て石の比喩的用法として、囲碁の捨て石が出てくる。一見無用に見えるけれども、後で役に立つ石です。

(2 b)には他の説明もいろいろ書いておきましたが、この程度の長さに書かないと、現在の用法をカバーすることにならないと思います。(こんな調子で書いたのがコトバ典だと、私は考えます。)更に囲碁の捨て石の用法が比喩的になり、しかも固定化してしまつて、将来のための布石、あらかじめ手を打っておくものという意味で用いられることが、実に多くなつていゝる。国立国語研究所のKOTONWAという試用版データベースで「捨て石」を引くと、ほとんど全部その意味です。したがつて(2 b)では、それを①にして書いてみました。

比喩が固定して本来の意味と離れて使われる例としては、この「捨て石」に非常に近いところでC「基礎」もそうです。建物の基礎から広がつて「科学の基礎」などの言い方。それから、「人柱」は、橋を架けるために人を埋めた場合ではなくても使います。これらはすべて同様の意味転化をたどつた言葉です。

先の(2 b)の長さは(2 a)の三倍になりましたが、こういう書き方がD辞書の本来のあり方だろつと思ひます。「捨て石」の例で言ひますと、今一番多く使われている比喩が固定化したものを①。それから、捨てたように見えても役に立つ、これが②。②の中にいろいろなバラエテイがあり、(ア)・(イ)・(ウ)のようなものが挙げてあります。それから③に、本来の、役に立たないから捨ててもいい石。このように構造化していったわけです。単に(f)ラレツとするので

はない、こういうやり方で書くことが、意味の記述としてはおそらく今までのただ番号を振るやり方に比べると、一歩進んだ記述法になるはずです。

(水谷静夫『曲がり角の日本語』による)

問一 波線部(a)「ヘンセン」、(b)「ナットク」、(c)「インゴ」、(d)「テッテイ」、(e)「カツアイ」、(f)「ラレツ」を、それぞれ漢字に直せ。

問二 二重傍線部ア「足し」の本文中の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 満足すること
- 2 他の数を足して合計すること
- 3 歩くときに使う手足の一部
- 4 不足を補うこと
- 5 足跡を残すこと

問三 二重傍線部(イ)「懸念」の本文中の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 執着すること
- 2 心を集中させること
- 3 気がかりに思うこと
- 4 思いがけないこと
- 5 推察すること

問四 二重傍線部ウ「見立てた」における「見立てる」の本文中の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 目をつけること
- 2 なぞらえること
- 3 見定めて立てること
- 4 世話をすること
- 5 みくびること

問五 二重傍線部Ⅰ「永井荷風」、Ⅱ「島崎藤村」に関して、それぞれの作品を、次の中から一つずつ選び、番号で答えよ。

- 1 刺青
- 2 破戒
- 3 山椒大夫
- 4 それから
- 5 ふらんす物語

問六 傍線部A「そういうことを気にしない」とあるが、だれのことについて言っているのか。本文中の語句をそのまま八字で抜き出せ。

問七 傍線部B「この場合には有用であって無用とは言えない」とあるが、その具体例として適当でないものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 囲碁でよりよい効果を得るために取らせる石。
- 2 鉱山で、採掘、掘進などの際に捨てられる石。
- 3 日本庭園によく置かれている石。
- 4 歌舞伎舞台上の屋外に置く作り物の石。



5 土木工事で水中に投げ入れた石。

問八 傍線部C「基礎」もそうです」とあるが、その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

1 囲碁の序盤戦で戦いが起こるまでの石の配置の意から、将来のために前もって手くばりしておくことの意に広がった。

2 いけにえとして生きた人を水底または地中に埋める意から、あることのために犠牲となって死んだひとの意に広がった。

3 探検隊や登山隊等における物資の輸送、補給、通信連絡を行う基点となる地点の意から、いしずえという意に広がった。

4 建築物を安定させるために設けたいちばん下の部分という意から、物事がなりたっているおおもとという意に広がった。

5 人の見る目に対して身も細る思いであることより生じたやさしいという意から、発展や応用等の前段階の意に広がった。

問九 傍線部 D 「辞書の本来のあり方」とはどのようなあり方か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 中年までの辞書利用者がよしとできるもの。
- 2 番号を振って記述していく方式で作成されたもの。
- 3 長さが従来の三倍になるように考えられたもの。
- 4 なぜ意味の転換が起こったかわかりやすく書かれたもの。
- 5 構造化を重視し、データベースに現れた意味を記述するもの。

## 〈選択問題〉

三 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

昔、<sup>これたか</sup>惟喬の親王と申すみこおはしましけり。(a) 山崎のあなたに、<sup>みな</sup>水無瀬といふ所に、宮ありけり。年ごとの桜の花ざかりには、その宮へなむおはしましける。その時、右の馬の頭なりける人を、常に<sup>(ア)</sup> みておはしましけり。時世経て久しくなりにければ、A その人の名忘れにけり。狩りは<sup>(b)</sup> ねむごろにもせで、酒をのみ飲みつつ、やまと歌に<sup>(c)</sup> かかれりけり。いま狩りする<sup>かたの</sup>交野の渚の家、その院の桜、ことにおもしろし。その木のもとにおりゐて、枝を折りてかざしにさして、かみ、なか、しも、みな歌よみけり。馬の頭なりける人のよめる。

I 世の中にたえてさくらのなかりせば春の心はのどけからまし  
となむよみたりける。また人の歌、

II 散ればこそいとど桜はめでたけれ憂き世になにか久しかるべき

とて、その木のもととは立ちてかへるに日暮れになりぬ。御供なる人、酒をもたせて、野よりいで来たり。この酒を飲みてむとて、よき所を求めゆくに、天の河といふ所にいたりぬ。親王に馬の頭、<sup>(d)</sup> 大御酒まゐる。親王ののたまひける、「交野を狩りて天の河のほとりにいたるを題にて、歌よみて盃はさせ」とのたまうければ、かの馬の頭よみて奉りける。

III 狩りくらししたなばたつめに宿<sup>(イ)</sup> からむ天の河原に我は来にけり

B 親王、歌をかへすがへす誦じたまうて、返しえしたまはず。紀の有常、御供に仕うまつれり。それが返し、

IV ひととせにひとたび来ます君待てば宿かす人もあらじとぞ思ふ

(『伊勢物語』第八十二段による)

※注 たなばたつめ 「棚機たなばたの女」の意。天の川を挟む牽牛星と織女星は、年に一度、七夕の日に会うという。

問一 点線部(a)「山崎のあなた」、(b)「ねんごろにもせで」、(c)「かかれりけり」、(d)「大御酒まゐる」の本文中における意味として最も適当なものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えよ。

(a) 「山崎のあなた」

- |   |         |   |             |   |        |
|---|---------|---|-------------|---|--------|
| 1 | 山崎のある場所 | 2 | 山崎の手前       | 3 | 山崎の向こう |
| 4 | 山崎のあの人  | 5 | 山崎という場所そのもの |   |        |

(b) 「ねんごろにもせで」

- |   |            |   |           |   |           |
|---|------------|---|-----------|---|-----------|
| 1 | 眠くなるほどもせずに | 2 | 疲れるほどもして  | 3 | 熱心にもやらないで |
| 4 | 仲良くもやらずに   | 5 | あきれるほど行って |   |           |

(c) 「かかれりけり」

- |   |          |   |           |   |          |
|---|----------|---|-----------|---|----------|
| 1 | ぶら下がっていた | 2 | お書きになっていた | 3 | 掛詞を使っていた |
| 4 | 賭け事をしていた | 5 | 熱中していた    |   |          |

(d) 「大御酒まゐる」

- |   |          |   |            |   |          |
|---|----------|---|------------|---|----------|
| 1 | お酒を飲み過ぎる | 2 | お酒を召し上がる   | 3 | お酒を差し上げる |
| 4 | お酒に酔われる  | 5 | 酒代をお支払いになる |   |          |

問二 二重傍線部 (ア)「ゐ」、(イ)「か」を漢字で記す場合に最も適当なものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えよ。

(ア)	「ゐ」	1	往	2	射	3	居	4	率	5	入
(イ)	「か」	1	枯	2	貸	3	借	4	狩	5	仮

問三 傍線部 A 「その人の名忘れにけり」とあるが、その解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 惟喬親王は右馬の頭の名前を忘れてしまったということ。
- 2 右馬の頭は親王の名前を忘れてしまったということ。
- 3 右馬の頭は自分の名前を忘れてしまったということ。
- 4 人々は親王の名前を忘れてしまったということ。
- 5 著者は右馬の頭の名前を忘れてしまったということ。

問四 傍線部 B 「親王、歌をかへすがへす誦じたまうて、返しえたまはず」についての説明として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えよ。

- 1 親王は歌を何度も口ずさんでいらっしやったものの、馬の頭への褒美はくださらなかった。
- 2 親王は歌を何度も口ずさんでいらっしやったが、馬の頭への歌をお作りになれなかった。
- 3 親王は歌を何度も口ずさんでいらっしやって、馬の頭の疑問は解いてくださらなかった。
- 4 親王は歌を何度も口ずさんでいらっしやって、馬の頭を宿に帰してくださらなかった。
- 5 親王が歌を何度も口ずさんでいらっしやったので、馬の頭は返事をするのができなかった。

問五 和歌Ⅰ～Ⅳについて書かれた次の文章について、空欄①～⑤に当てはまる語句あるいは文として最も適当なものを、それぞれの選択肢の中から一つずつ選び、番号で答えよ。

Ⅰの歌は、「① ②」という気持ちを詠んでいる。Ⅱの歌は、Ⅰに反発した形で、「散ればこそいとど桜はめでたけれ」と言い、③ ④ という地名から七夕伝説を連想して詠まれた歌である。Ⅳの歌は、Ⅲの歌に対応して、伝説における④ ⑤ の立場を意識して詠んだものである。この文章が収められている『伊勢物語』は、ある人物の一代記の形をとっており、「右の馬の頭なりける人」の詠んだⅠとⅡの和歌は、『古今和歌集』には⑤ の歌として収められている。

- ① 1 世の中に桜というものがあるからこそ、春の人々の心は穏やかでいられるのに。
- 2 世の中に桜というものがなかったなら、春の人々の心は穏やかだろうに。

3 昔は世の中に桜というものがなかったので、春の人々の心は穏やかだっただろう。  
 4 世の中から桜が消えるからこそ、晩春には人々の心が穏やかになるのだろうに。  
 5 世の中から桜が消えてしまうなら、春の人々の心は穏やかではいられないだろう。

②  
 1 世の中で生きるのはつらいことばかりだと嘆いている  
 2 桜のことは気にも掛けず、夏の訪れを楽しみにしている  
 3 桜は一年後に必ずまた咲くから不安はないと述べている  
 4 桜と同様、どんなものも永遠には続かないと述べている  
 5 桜に限らず、人も早く散ってしまうのが潔いと述べている

③  
 1 水無瀬  
 2 渚の院  
 3 交野  
 4 天の河  
 5 たなばた

④  
 1 牽牛星  
 2 織女星  
 3 天の川  
 4 夜空  
 5 紀有常

⑤  
 1 紀貫之  
 2 小野小町  
 3 紀有常  
 4 大伴家持  
 5 在原業平